

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年1月2日

予報期間：1月4日～2月3日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

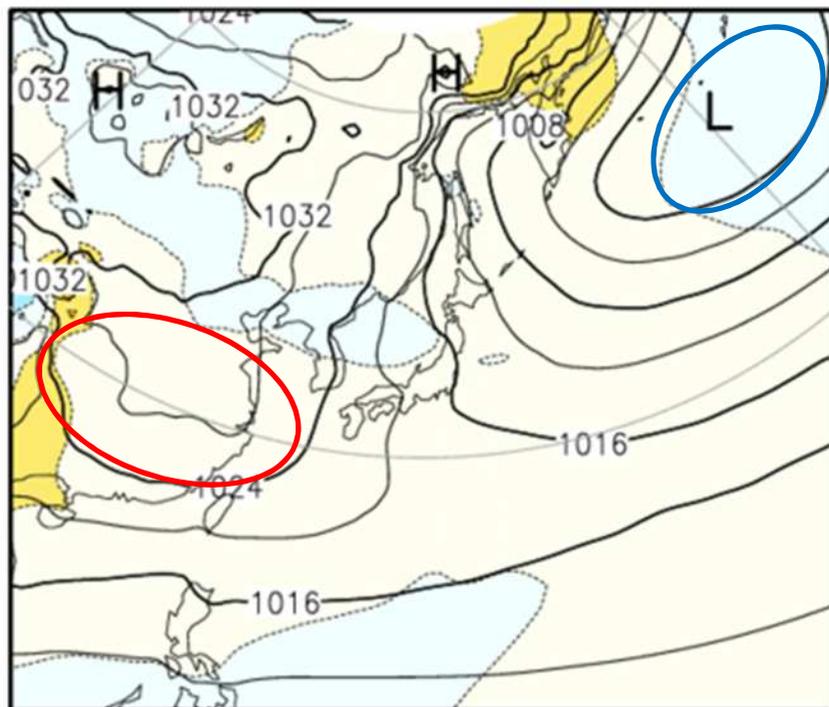
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:40:40	40:30:30	40:30:30	40:40:20
	太平洋側		30:40:30	30:30:40	
東日本	日本海側	20:40:40	30:40:30	30:40:30	40:40:20
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
西日本	日本海側	50:30:20	40:30:30	30:30:40	30:40:30
	太平洋側		40:30:30	20:40:40	
沖縄・奄美		50:40:10	40:40:20	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	40:40:20	10:30:60	30:30:40
東日本	30:50:20	20:30:50	30:30:40
西日本	50:40:10	50:30:20	30:40:30
沖縄・奄美	50:40:10	50:40:10	40:30:30

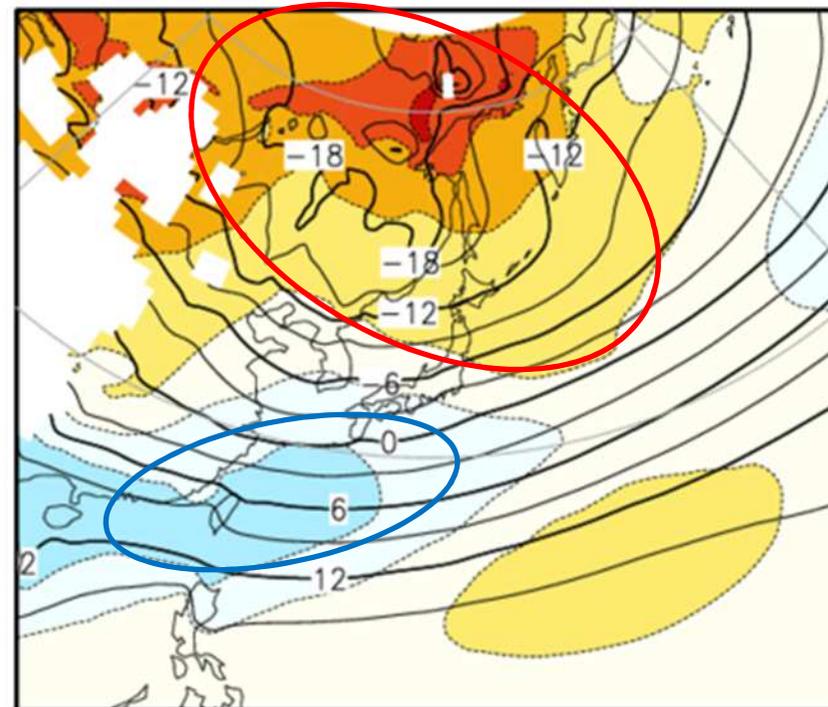
全般予報のポイント

- ・北日本を中心に寒気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の気温は北・東日本で平年並か高いでしょう。特に、北日本では、2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の気温は低いでしょう。特に、西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。
- ・寒気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降雪量は北・東日本日本海側で平年並か少ないでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は沖縄・奄美で平年並か少ないでしょう。日照時間は西日本太平洋側で平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



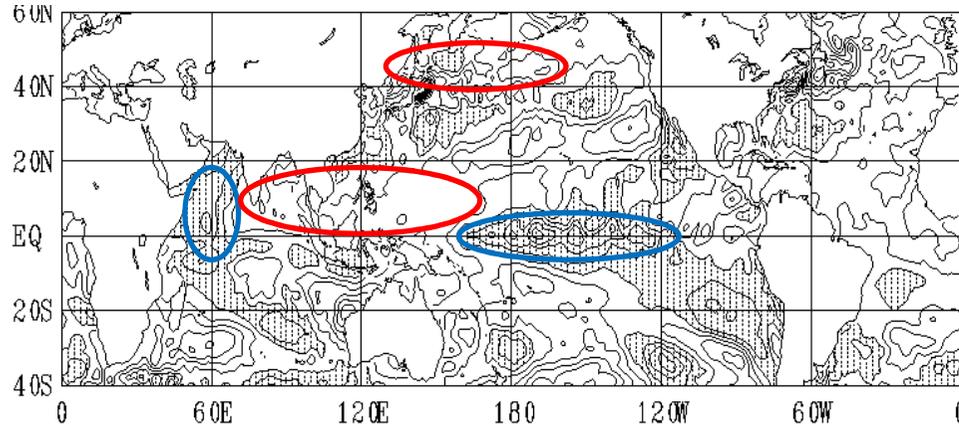
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、アリューシャン近海を中心に平年より低い一方で、シベリア高気圧は南東への張り出しがやや強いでしょう。このため、日本付近では冬型の気圧配置が強まる時期があり、西日本太平洋側や沖縄・奄美では低気圧の影響を受けにくいでしょう。

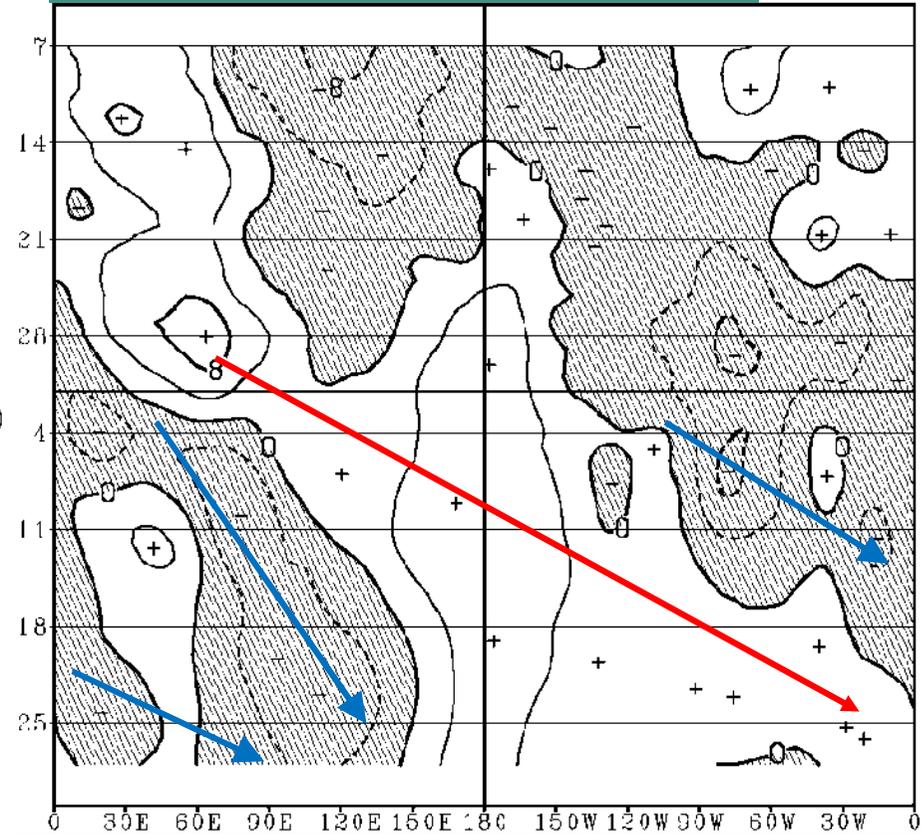
上空約1500mの気温(右図)は、西日本と沖縄・奄美では平年より低く、寒気の影響を受ける時期があるでしょう。一方、北・東日本では平年より高く、寒気の影響を受けにくい時期があるでしょう。

SST偏差



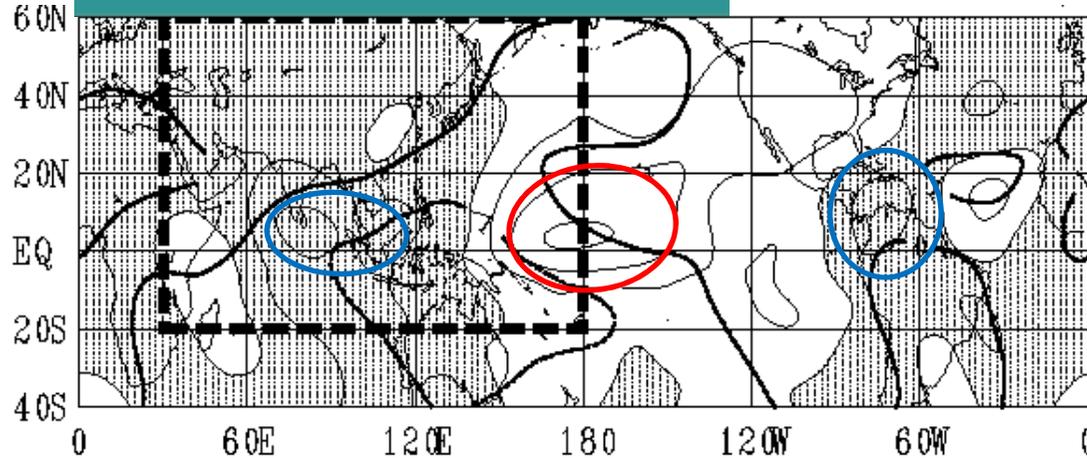
熱帯域では、インド洋西部で負偏差。インド洋東部から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域中部で負偏差。北日本周辺海域から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



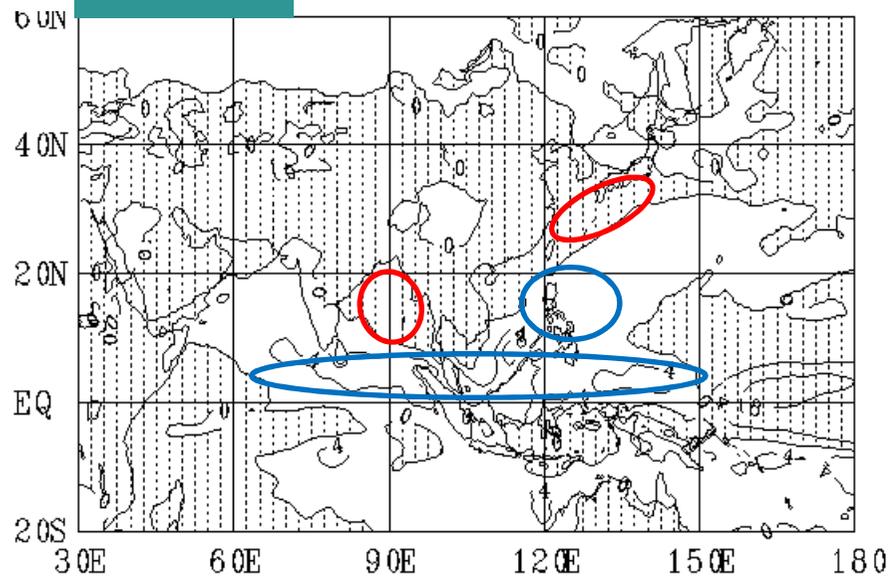
実況のインド洋西部の対流不活発域、南米とアフリカの対流活発域がそれぞれ東進し、期間の後半はインドネシア付近で対流が活発となる。

200hPa速度ポテンシャル



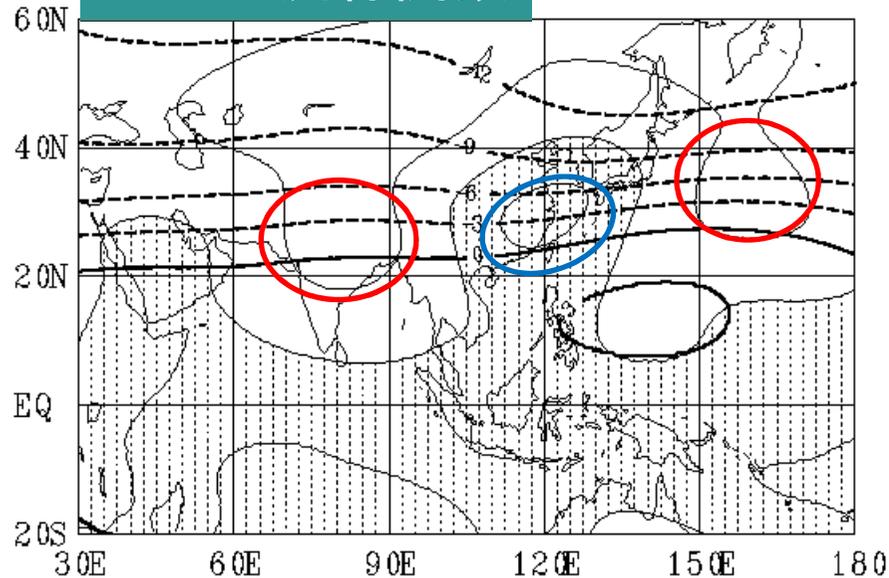
熱帯の対流活動に対応して、インド洋からフィリピン付近にかけてと南米で上層発散偏差の一方、太平洋中部で上層収束偏差。

降水量



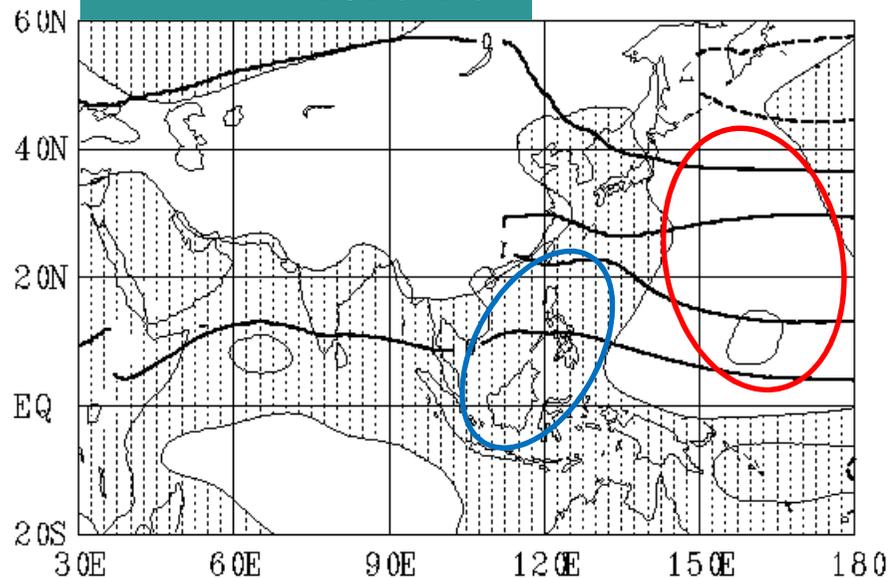
インド洋の熱帯域からニューギニアの北にかけてとフィリピン付近は多雨偏差。一方、ベンガル湾付近は少雨偏差。日本付近では、沖縄・奄美を中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



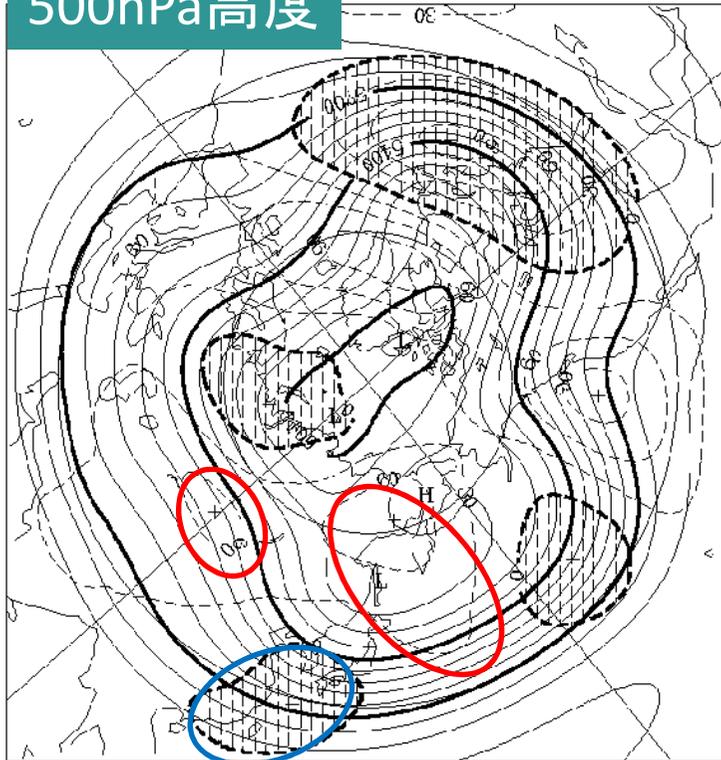
インド付近と日本の東で高気圧性循環偏差、中国南部から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られる。

850hPa流線関数



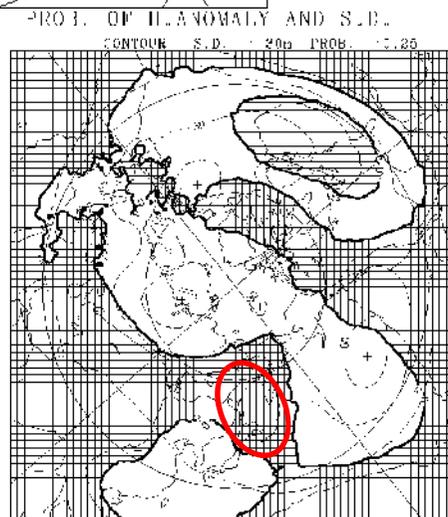
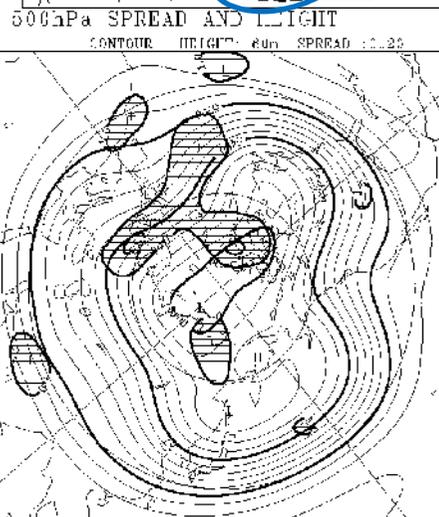
熱帯の対流活発の影響で、インドネシアからフィリピン付近を中心に低気圧性循環偏差。一方、フィリピンの東から日本の東にかけて高気圧性循環偏差。

500hPa高度

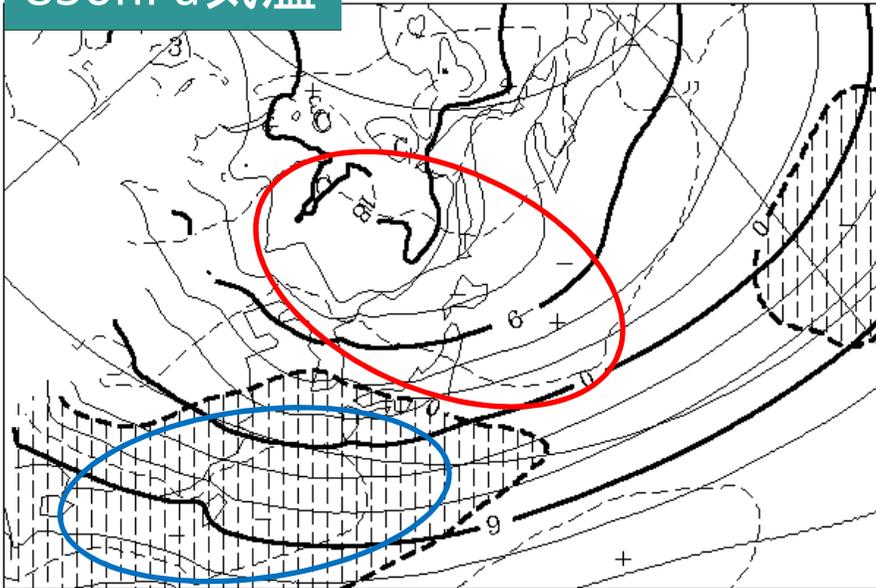


バイカル湖の西と東シベリアから日本の東にかけてを中心に正偏差域が広がる。一方、東シナ海から西日本にかけて負偏差。

北海道付近は正の高偏差確率50%以上の領域がかかる。

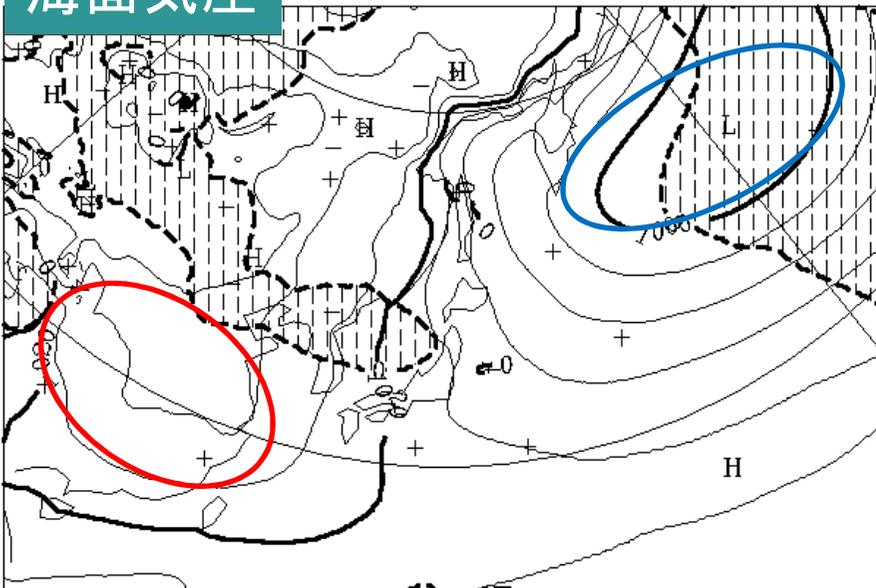


850hPa気温



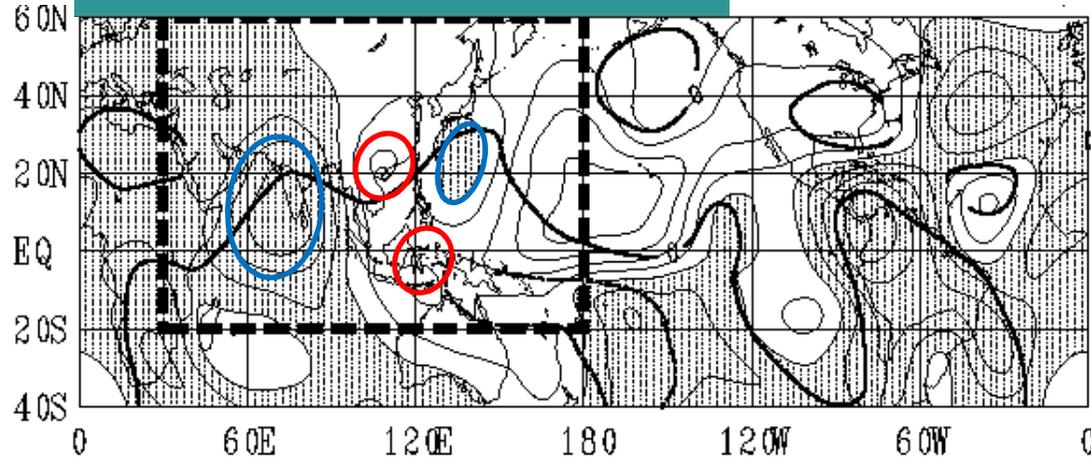
西日本と沖縄・奄美では負偏差。一方、北・東日本では正偏差。

海面気圧



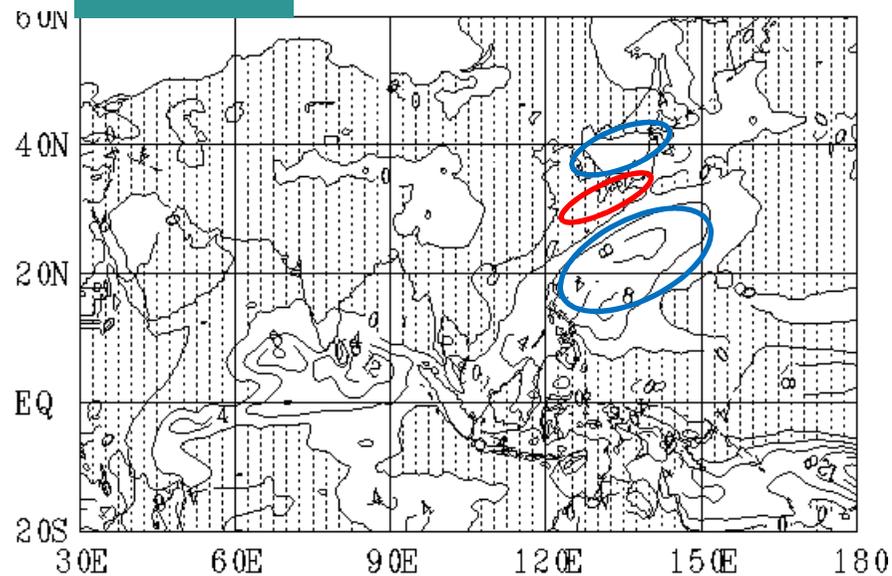
アリューシャン近海を中心に負偏差。シベリア高気圧は南東への張り出しがやや強く、日本付近では冬型の気圧配置となる時期がある。西日本太平洋側や沖縄・奄美では低気圧の影響を受けにくい。

200hPa速度ポテンシャル



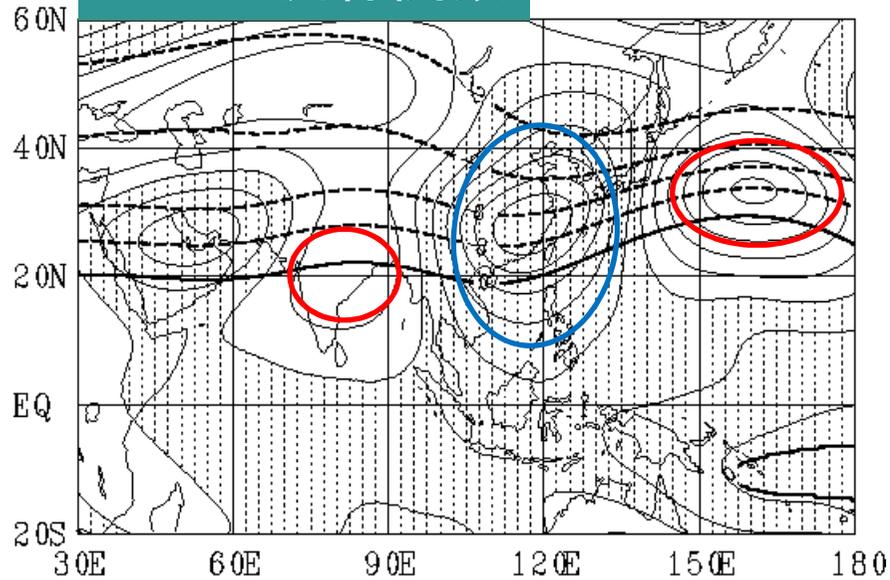
インド洋西部と日本の南で上層発散偏差、華南とインドネシア付近で上層収束偏差。

降水量



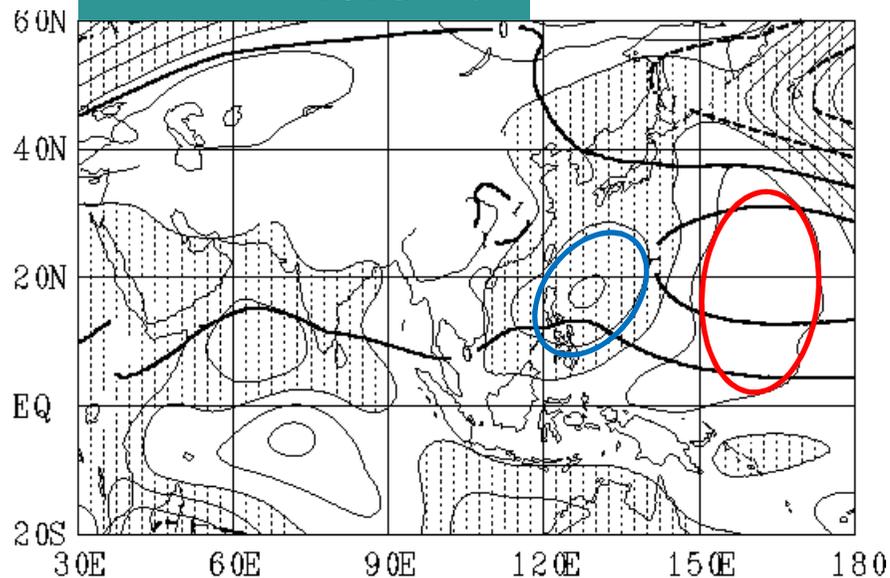
フィリピン付近から日本の南にかけて多雨偏差。日本付近は日本海側で多雨偏差、太平洋側で少雨偏差。

200hPa流線関数



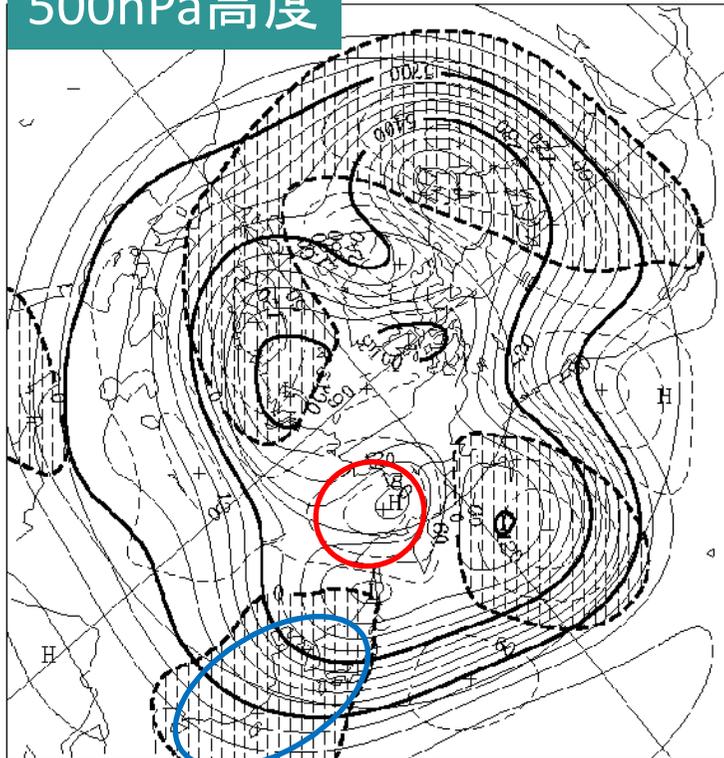
インド付近と日本の東で高気圧性循環偏差、華中付近で低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られる。

850hPa流線関数



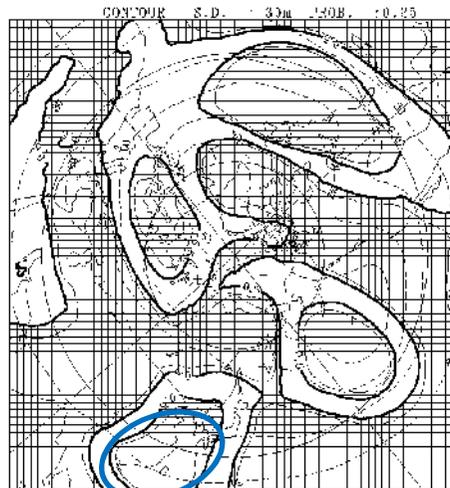
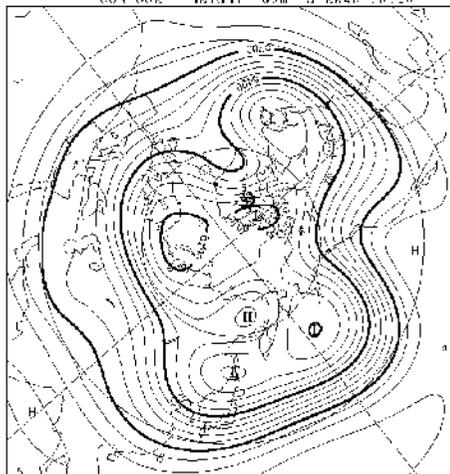
フィリピンから日本の南にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東で高気圧性循環偏差。

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

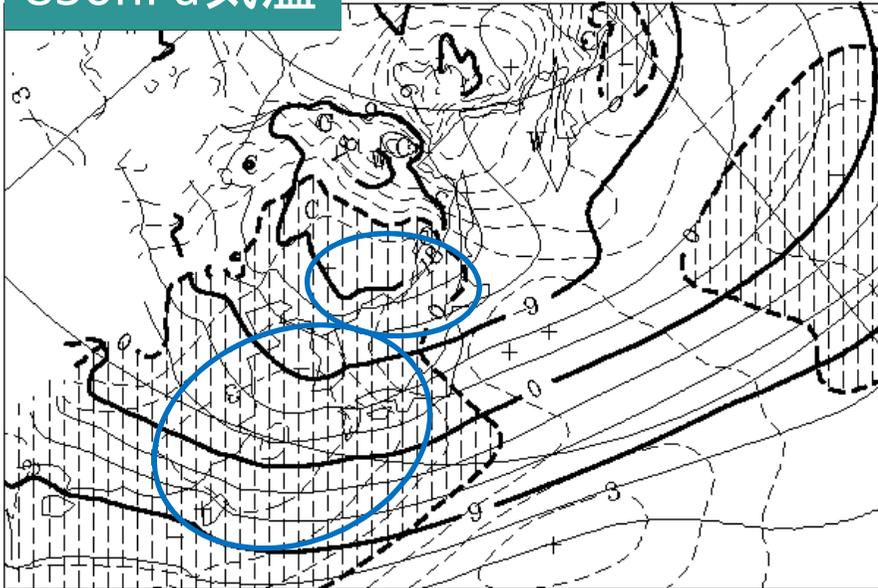
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



東シベリア付近が正偏差の一方、日本海から東シナ海にかけてはトラフとなっており負偏差。

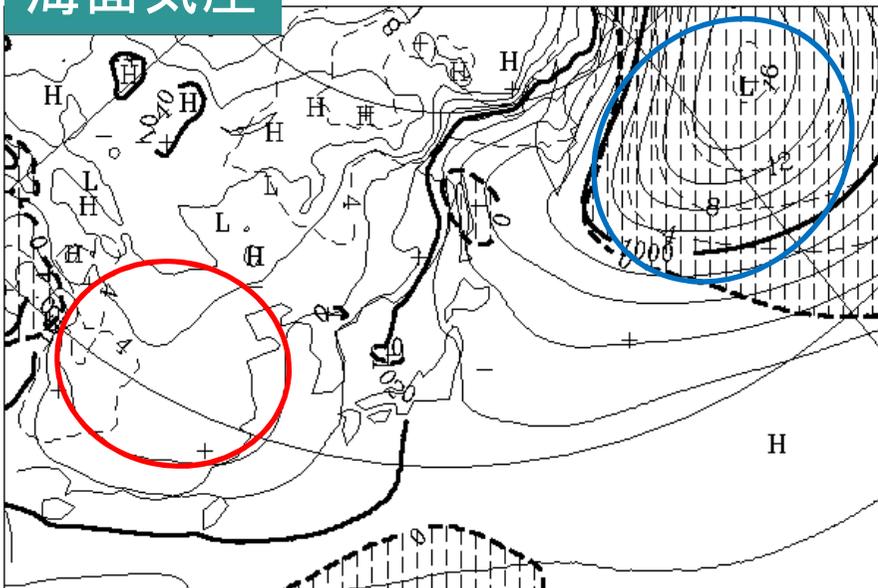
東シナ海は負の高偏差確率50%以上の領域に覆われ、日本付近は西回りで寒気の影響を受けやすい。

850hPa気温



北海道付近と西日本から沖縄・奄美にかけて負偏差。

海面気圧



アリューシャン近海で負偏差が強く、またシベリア高気圧が華南付近で強く、日本付近は冬型の気圧配置となりやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすいため、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

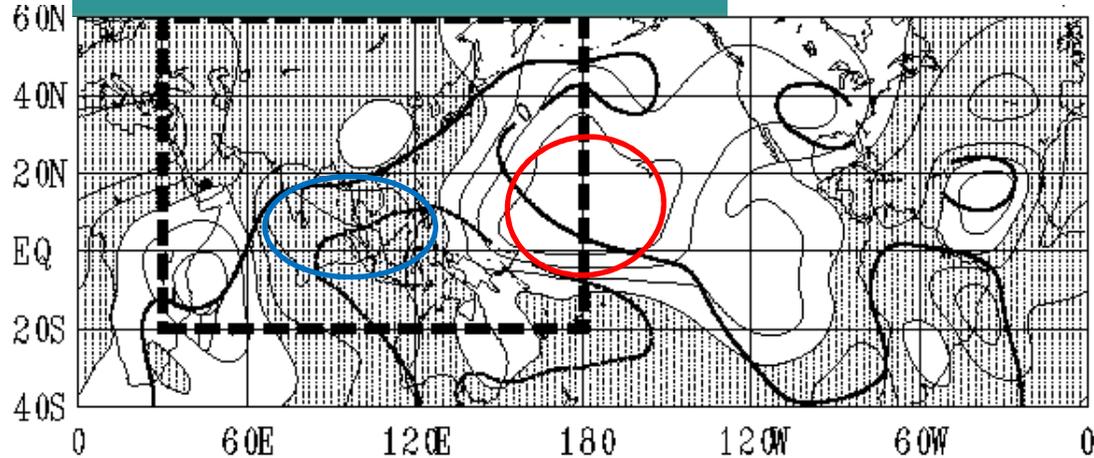
<気温>

- ・ 北・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすいため、北日本では低温傾向で、西日本と沖縄・奄美は低温。東日本では並温。

<天候>

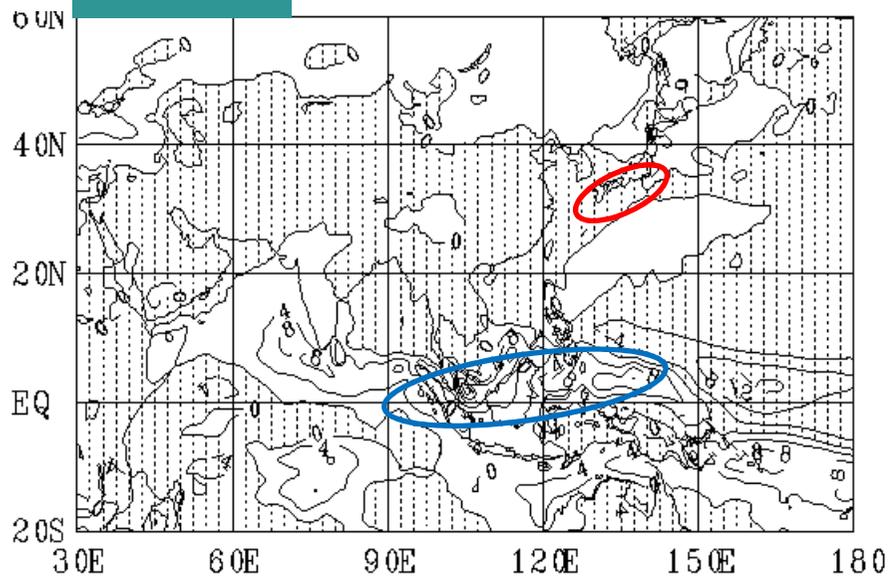
- ・ 北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすい。
- ・ 北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧の影響を受ける時期もある。

200hPa速度ポテンシャル



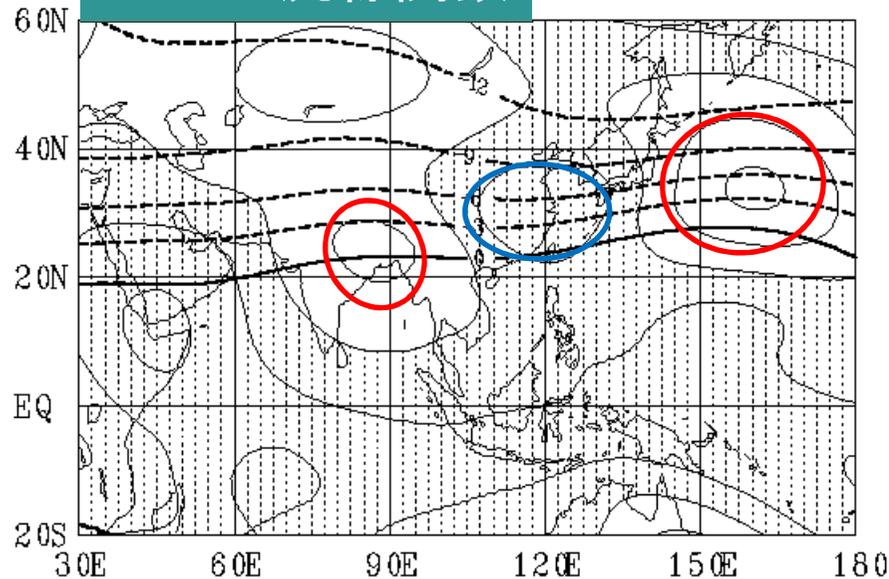
インド洋から南シナ海にかけて上層発散偏差。太平洋中部で上層収束偏差。

降水量



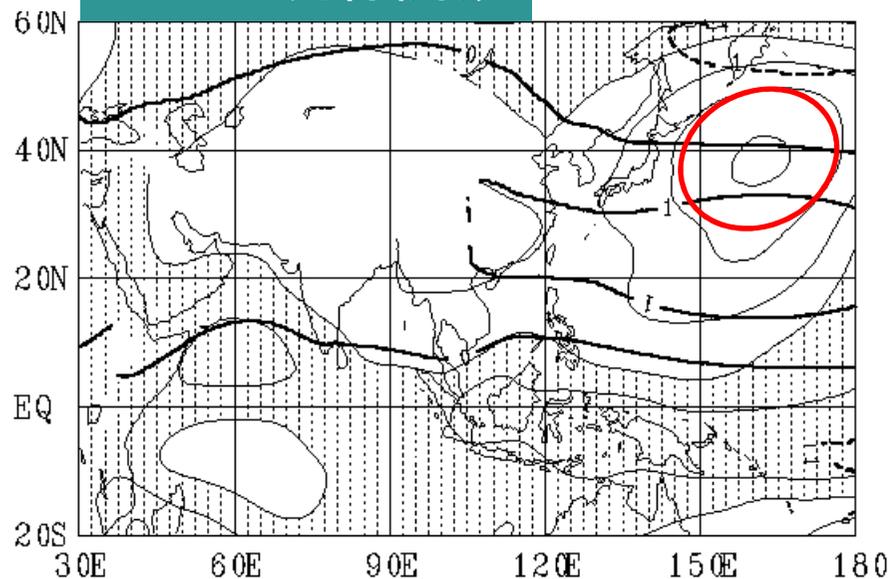
インドネシア付近で多雨偏差。
日本付近はおおむね少雨偏差。

200hPa流線関数



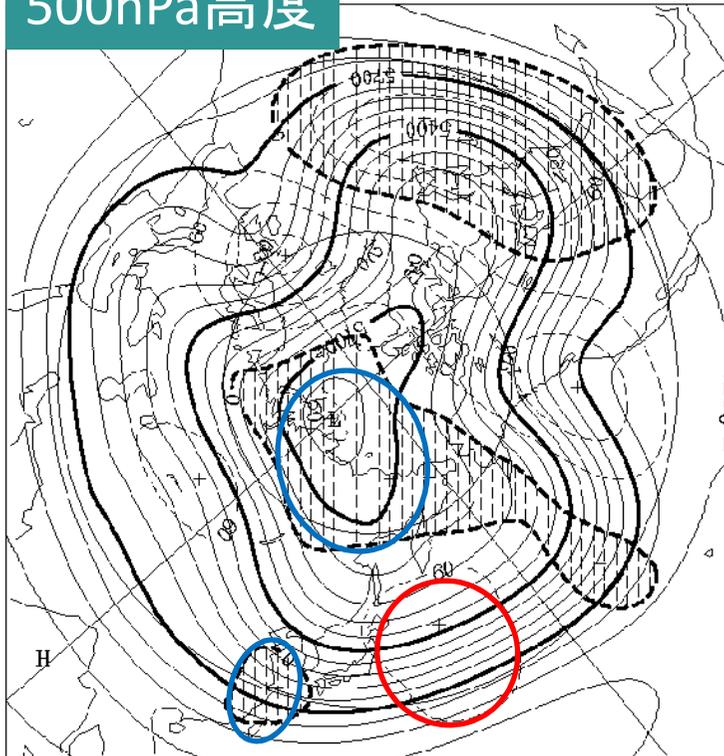
インド付近と日本の東で高気圧性循環偏差。華中付近で低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られる。

850hPa流線関数



日本の東は高気圧性循環偏差で、北日本を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込む時期がある。

500hPa高度

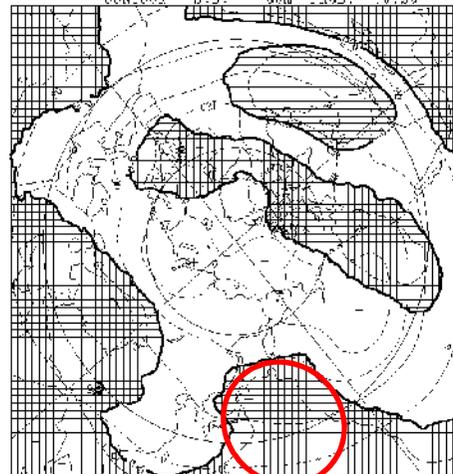
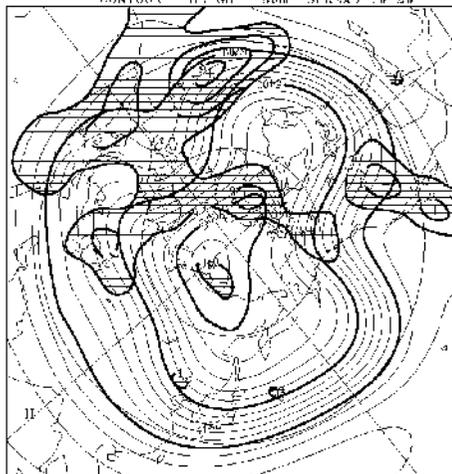


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

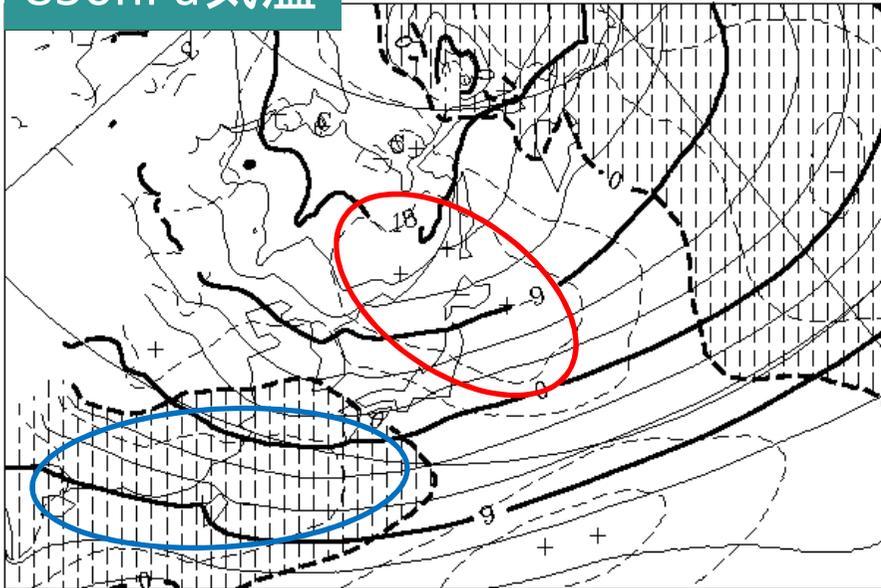
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 200 0.25



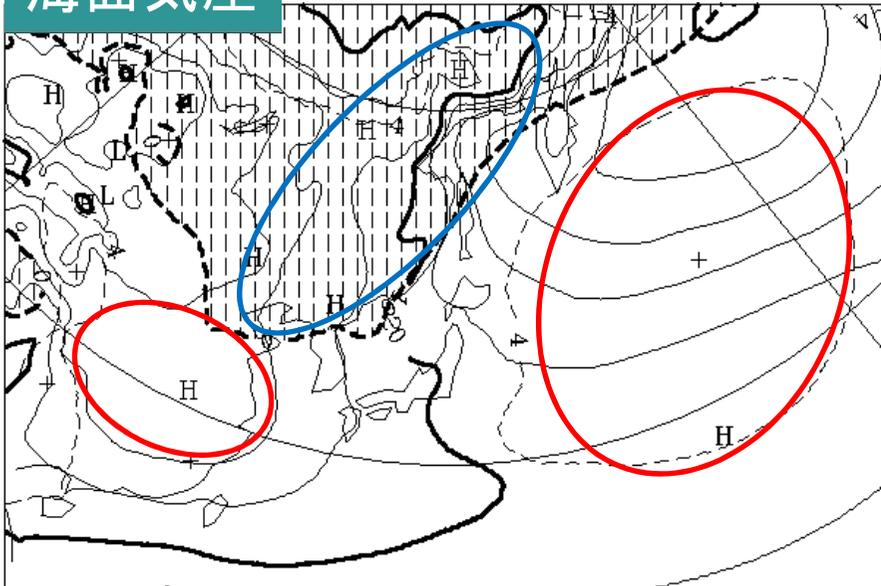
東シベリアと華中から東シナ海にかけて負偏差の一方、日本の東を中心に日本付近はおおむね正偏差に覆われる。北・東日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われ、寒気の影響を受けにくい。

850hPa気温



北・東日本を中心に正偏差に覆われる一方、東シナ海から西日本にかけて負偏差。

海面気圧



シベリア高気圧は南東への張り出しがやや強いが、日本の東も高気圧となるためアリューシャン低気圧は弱く、冬型の気圧配置は緩む。西日本を中心に高気圧に覆われやすい。華北からオホーツク海にかけては負偏差で、日本の北を低気圧が通りやすく、低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込む時期がある。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置となりにくいいため、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置となりにくいいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

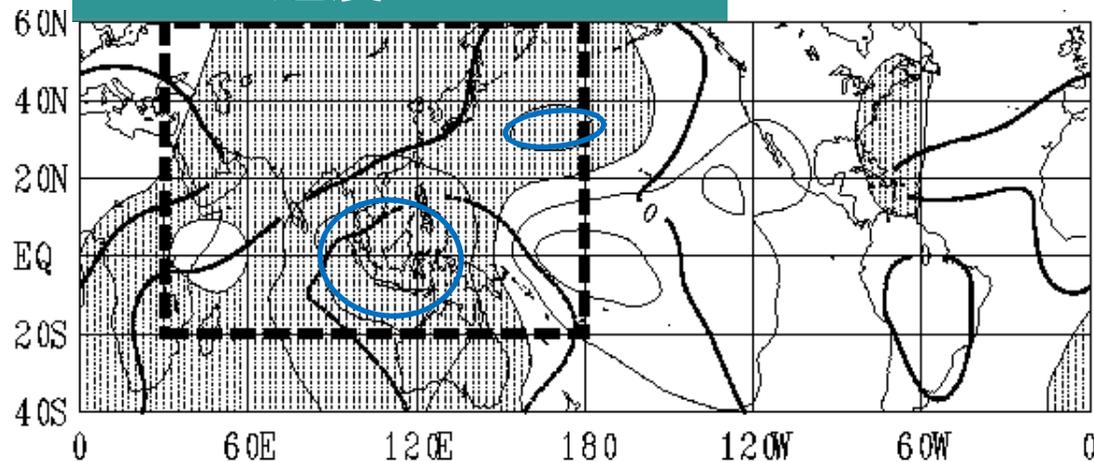
<気温>

・寒気の影響を受けにくいいため、北・東日本は高温で、北日本ではかなりの高温となる可能性がある。一方、西日本と沖縄・奄美では寒気の影響が残るため低温で、かなり低くなる可能性がある。

<天候>

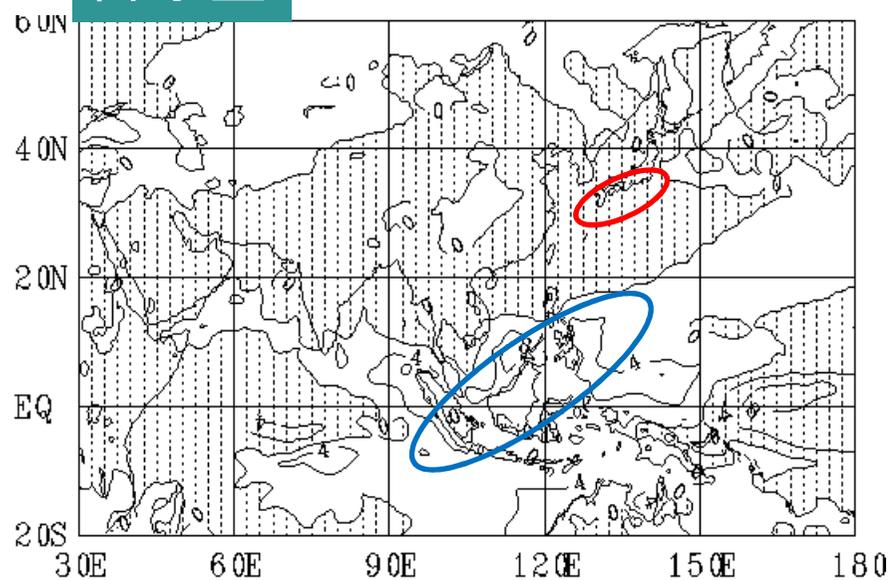
- ・北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が緩む。
- ・北日本太平洋側では、高気圧に覆われる時期もあるが、低気圧に向かって暖かく南から湿った空気が流れ込む時期もある。
- ・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすい。

200hPa速度ポテンシャル



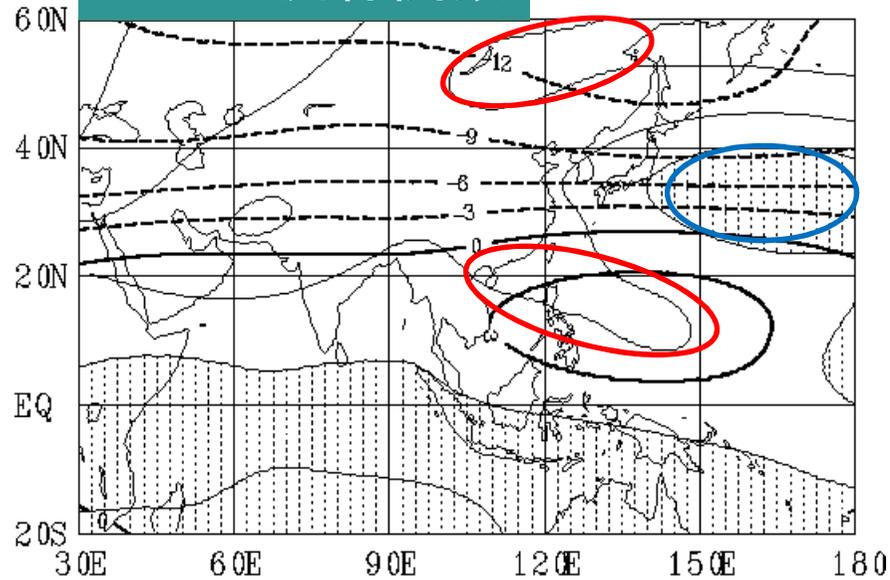
インドネシアからフィリピンにかけてと日本の南東を中心
に上層発散偏差。

降水量



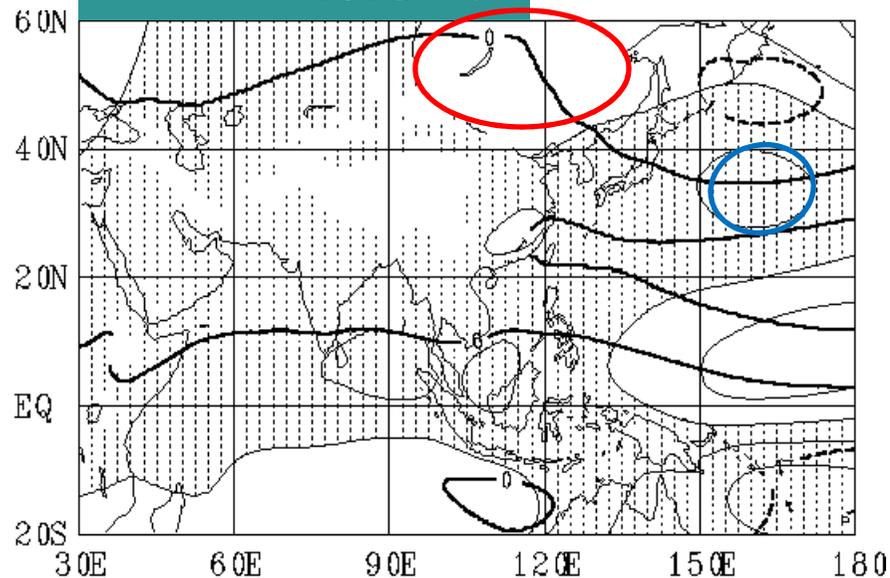
インドネシアからフィリピン付近
にかけて多雨偏差。日本付近
はおおむね少雨偏差だが、平
年との隔たりは小さい。

200hPa流線関数



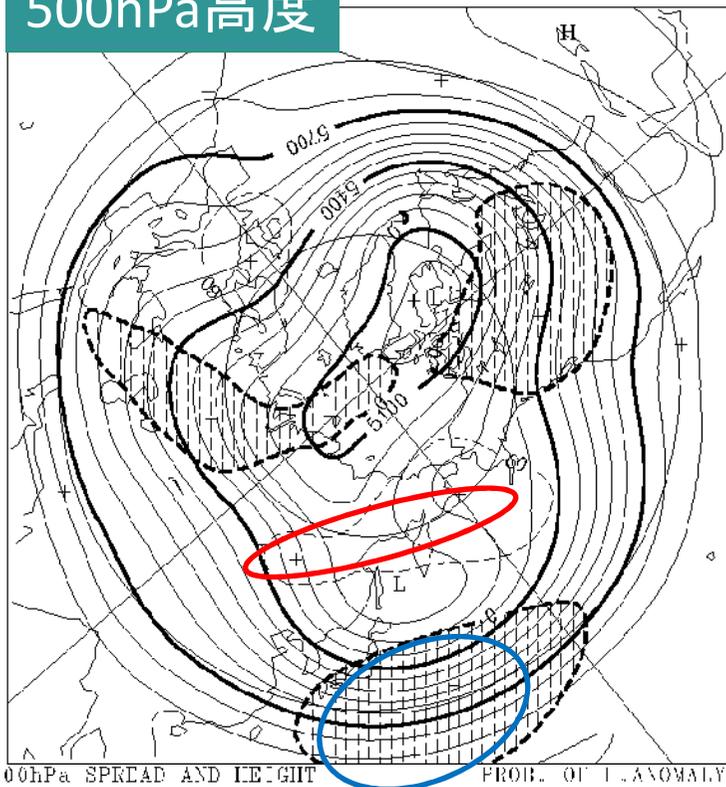
フィリピンの東とバイカル湖付近に高気圧性循環偏差、日本の東は低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



バイカル湖付近は高気圧性循環偏差、日本の東を中心に低気圧性循環偏差で、日本付近に寒気を引きこみやすい。

500hPa高度

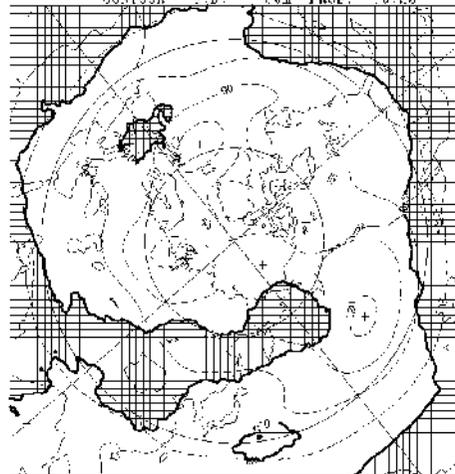
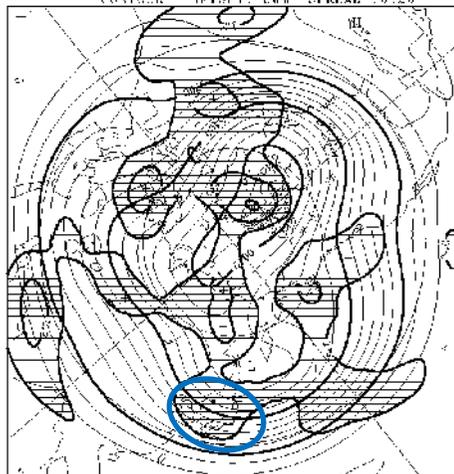


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

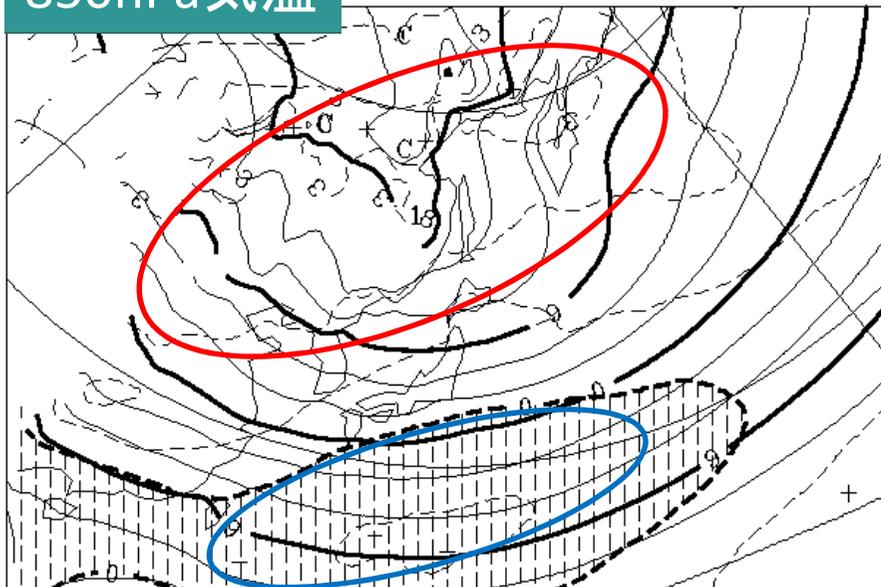
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



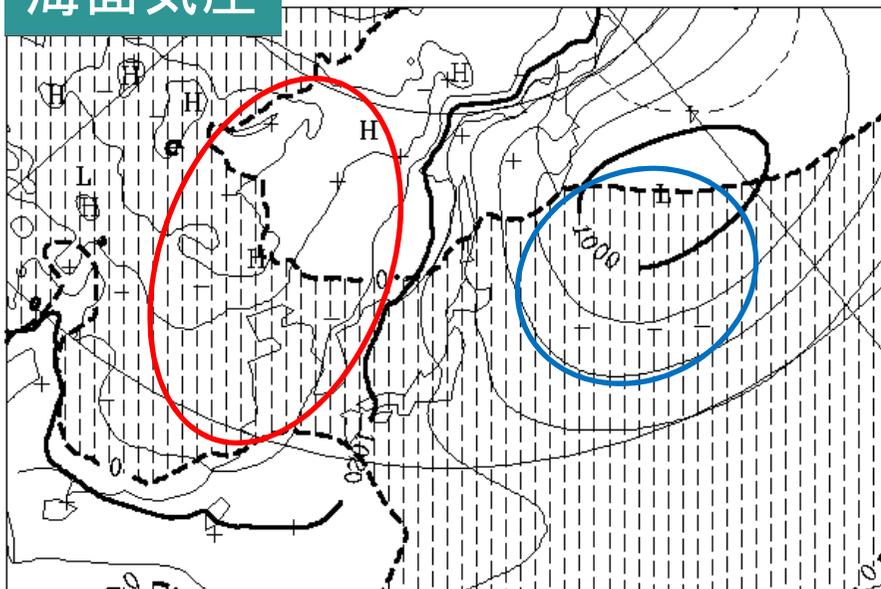
バイカル湖の東から東シベリアにかけてを中心に正偏差の一方、日本付近は東谷で日本の南東を中心に負偏差となり、寒気の影響を受けやすい。日本付近のスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波列の影響には不確実性があるため、亜熱帯ジェット気流沿いの波列の影響を重視する。

850hPa気温



日本の北で正偏差、日本の南で負偏差だが、北から寒気が流れ込む時期もあると見込み、全国で平年程度で考える。

海面気圧



日本の東で低気圧が強い。シベリア高気圧は寒気の影響を受けて予測資料よりも南東に張り出す時期もあると見込み、日本付近は冬型の気圧配置がやや強まる時期もあると考える。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

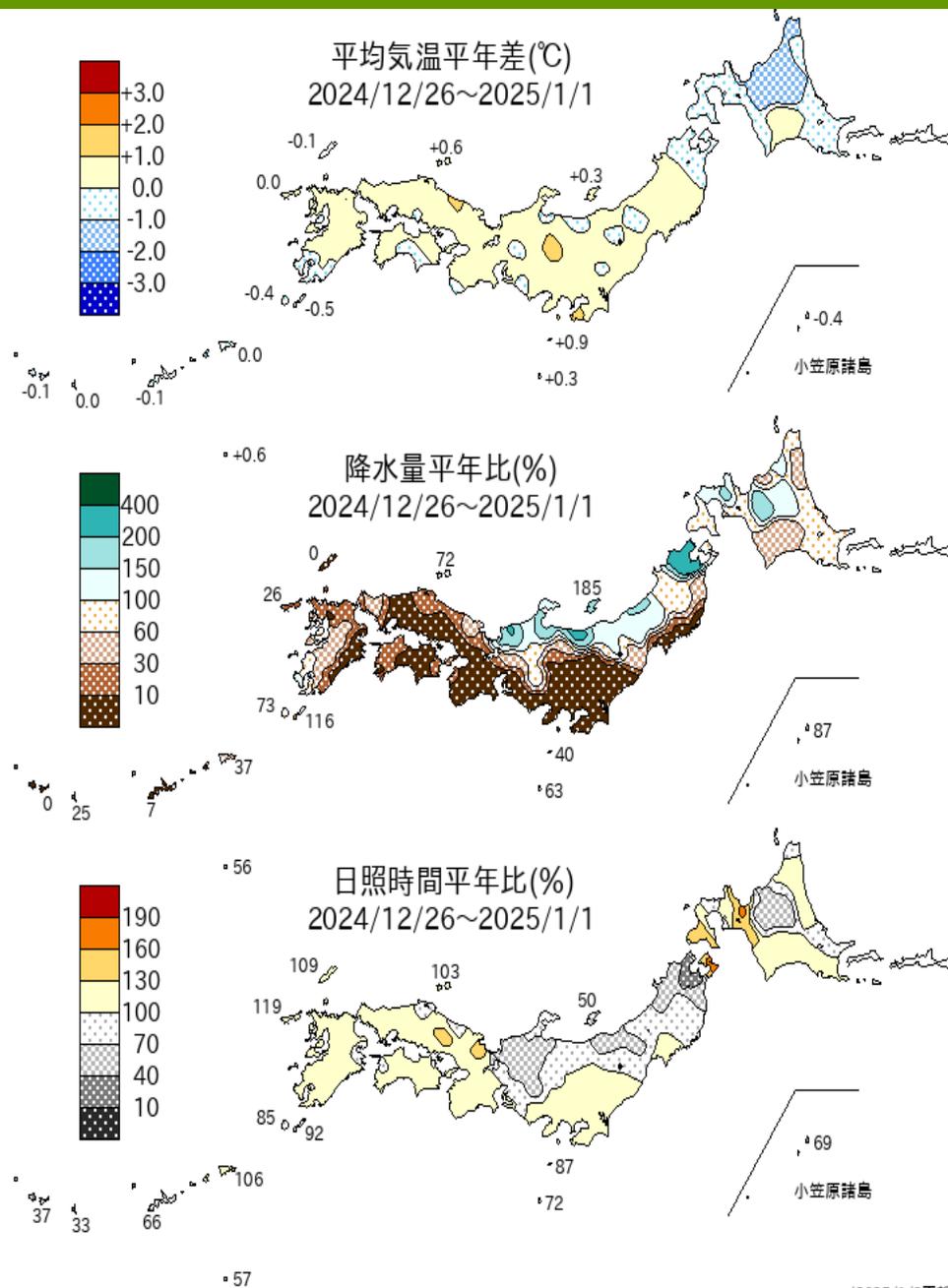
・全国でほぼ平年並だが、西日本や沖縄・奄美は寒気の影響を受ける時期もあると考える。

<天候>

・日本海側では平年程度の天候を見込むが、冬型の気圧配置がやや強まる時期もあると考える。

・太平洋側と沖縄・奄美では平年程度の天候を見込むが、低気圧の影響をやや受けにくく、沖縄・奄美では寒気の影響を受ける時期もあると考える。

最近1週間の天候経過



最近1週間(12月26日~1月1日)は、日本付近は冬型の気圧配置が続きやすかったことから、北・東日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなりました。一方、北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側では移動性高気圧に覆われる日もあり、晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美では寒気の影響を受ける時期があり、曇る日が多くなりました。

気温は12月28日頃を中心に全国的に寒気の影響を受けたものの、本州付近では寒気の影響を受けにくい日もあり、おおむね平年より高くなりました。